

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
小電力システム作業班（第 17 回） 議事録

1 日時

令和 5 年 5 月 24 日（水） 10:00～10:20

2 場所

Web 会議

3 出席者（敬省略）

主 任：児玉 俊介

構 成 員：戸部 隆久、岩田 弘道、加藤 数衛、阪口 啓、高井 正興、
高橋 修一、松村 武、安川 昌孝、渡川 洋人

オブザーバー：サーキットデザイン 大澤

事 務 局：総務省移動通信課

4 配布資料

資料番号	資料名	作成者
資料 1	433MHz 帯タイヤ空気圧モニタ及びリモートキーレス エントリーに係る技術的条件の検討開始及び TPMS・RKE システムアドホックグループの設置について	事務局
参考資料 1	小電力システム作業班運営方針	事務局
参考資料 2	小電力システム作業班構成員名簿	事務局

5 議事

(1) 「433MHz 帯タイヤ空気圧モニタ及びリモートキーレスエントリに係る技術的条件」の検討開始及び TPMS・RKE システムアドホックグループの設置について

資料 1 に基づき事務局より、「433MHz 帯タイヤ空気圧モニタ及びリモートキーレスエントリに係る技術的条件」の検討開始と、TPMS・RKE システムアドホックグループの設置について説明が行われた。

主な質疑応答は以下のとおり。

児玉主任：430MHz から 440MHz はアマチュア無線に分配されているが、この帯域は複数チャンネルに分けて使用しており、混信や雑音、受信感度低下等があった場合に、自動的又は手動で他のチャンネルに移動するようなシステムになっているのか。また、5MHz や 10MHz といった広い帯域幅のチャンネルでの利用もあるのか。

事務局：ご質問の 1 点目については、TPMS・RKE システムの帯域幅については、今後、検討していくこととなるが、430MHz から 440MHz までのアマチュア無線の全ての帯域がつぶれるのではなく、TPMS・RKE システムと周波数が重なったいくつかのチャンネルのみ影響を受けるおそれがあると考えます。

2 点目のご質問について、5MHz や 10MHz といった帯域幅の広いアマチュア無線はない。

高井構成員：アマチュア無線は、バンドプランにより帯域単位で使用用途が指定されている。現在、433.9MHz は FM の帯域となっており、またそのすぐ上の 434MHz はリピーターのアップリンク用の周波数となっている。

児玉主任：チャンネルによって使用用途が異なるということで理解した。

阪口構成員：アマチュア無線のバンドプランについて、帯域単位とあったが、チャンネルの中心周波数の間隔はどのように設定されているか。

高井構成員：例えば 430MHz から 430.1MHz は CW のみの利用といったように決まっているが、中心周波数は限定せず、その中での運用は自由となっている。

阪口構成員：数 MHz 単位でバンドと呼んでおり、その中での運用は自由ということか。

高井構成員：バンドというより帯域と考えていい。430MHz から 440MHz の 10MHz の帯域を使用用途ごとに分けている。

阪口構成員：承知した。システムによって言葉の使い方が違うので、共通理解のため質問した。

児 玉 主 任 433MHz 帯タイヤ空気圧モニタ及びリモートキーレスエントリーに係る技術的条件の検討開始及び TPMS・RKE アドホックグループの設置について了承いただいた。今後はアドホックグループで検討して頂く。作業班運営方針に基づき、リーダーは阪口構成員を指名する。阪口構成員よりお願いしたい。

(2) その他

事務局より、次回の開催日程等については別途連絡する旨説明された。

(以上)